

令和5年度学校自己評価システムシート (県立和光高等学校)

目指す学校像	創造する力を伸ばし、協働する元気な集団を育てる学校
--------	---------------------------

重点目標	1 意欲を育て、ひとりひとりの力をしっかりと伸ばす学習指導 2 ルールと時間を守り、思いやる心と社会性を養う生活指導 3 自分自身を正しく理解させ、自尊・自信を築く進路指導 4 協力を汗を流すことを尊ぶ、活気ある学校行事と部活動の充実及び地域への貢献
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名(紙上参加含む)
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 2 5 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	【現状】 ・2年間の少人数学級編制に魅力を感じ、高校での学びなおしを目的に入学する生徒が多い。 ・1・2学年では一人一台 iPad を所有し、授業だけでなく学校生活の様々な場面で活用している。 ・新教育課程、観点別評価が昨年度入学生から実施された。 【課題】 ・入学段階では基礎学力の定着に課題を抱える生徒が一定数おり、学習への取組み方について丁寧なサポートが必要である。 ・統合による生徒の学習環境への影響を最小限にする工夫を考えていく必要がある。 ・授業力向上のための取組 (ICT 活用を含む) をさらに進めていく必要がある。	さらなる授業力向上の推進 生徒の実態に即した学習支援の推進	①教員相互の授業見学 ②ICT を積極的に活用した授業実践 ③授業評価アンケート、授業参観でのアンケート実施 ④外部講師を招いた研究授業の実施 ①2年間の少人数学級編制の継続 ②朝学習や考查前補習などの実施 ③ICT の学習活動への活用	①②教員間の授業見学参加者数 ②職員研修、研究協議への参加者数 ③授業評価アンケート等の結果 ④研究授業の実施回数 ①学校評価アンケートの結果 ②成績優良者数、不振者数の変化 ③教員間での ICT の活用例の共有	①延べ30名が授業見学し、意見を交換することで授業改善につなげた。 ②授業評価アンケートの結果から、教科によって ICT の活用状況に差があることが分かった。 ③昨年度に引き続き、授業評価アンケートでは、授業への取組、満足度、分かりやすさへの肯定的回答がいずれも90%以上であった。 ④外部講師(県指導主事)や中学校教諭を招いた研究授業を国語・数学・英語・体育で実施し、授業力向上に取り組んだ。 ①少人数学級編制への評価は高い(肯定的回答:保護者・生徒ともに94%)。 ②評価方法が昨年度と異なる学年があるため単純比較は難しいが、概ね成績不振者の割合は減少し、成績優良者の割合は増加している。 ③授業評価アンケートでは、ICT 活用に対する肯定的回答の割合が75%であった。	B	・生徒の学習への取組状況は年々向上している。丁寧な支援を要する生徒の割合が増加しており、様々な人的資源(巡回支援員、SC等)との連携は今後も必要である。 ・さらなる授業力向上に向け、外部講師を招いて研究授業の充実を図るなど、授業改善に継続的に取り組む。 ・観点別評価の研究を続け、本校生徒の実態に即した評価体制を構築できるよう改善をすすめる。 ・次年度は全生徒が iPad をもつ状況となることから、教科特性に応じた授業内活用をすすめる。また、総合的な探究の時間や学校行事等授業外の場面でも ICT の良さを発揮できる機会を設ける。	
2	【現状】 ・学校生活・通学におけるルール・マナーの遵守に課題がある。特に、頭髮・服装を自ら正そうとする意識が依然として低い。 ・年間遅刻者数がのべ1500人と、依然高い水準である。 ・登下校時の交通事故件数が、高い水準である。 ・場に応じた行動ができず、問題行動も発生している。 ・人間関係の形成や家庭環境などに多様な課題を抱えている生徒が増加している。 【課題】 ・規範意識の醸成および基本的な生活習慣の定着が求められる。 ・外部機関や家庭と連携した組織的な教育相談体制を確立させる。	規範意識の醸成および基本的な生活習慣の定着 組織的な教育相談体制の確立	①生徒の時間管理意識向上させる取り組みの充実(5分前行動、チャイム着席の徹底、遅刻指導等) ②全校統一基準による各種指導の充実(頭髮服装指導、自転車マナーアップ等) ③LHR や特別活動を生かした SST (ソーシャルスキルトレーニング) の実施 ①SC・SSW・学校相談員・特別支援教育巡回支援員等と連携した、情報共有や問題解決	①③全体遅刻数・欠席数の減少 ②③整容違反者の数の減少 ②交通事故件数の減少 ③行事事後アンケートの満足度の上昇 ①各委員会の年間開催回数の増加	①③遅刻数は昨年度比で横ばいであった(12月末日現在1135件、昨年度比101%)。また、欠席数は昨年度比で増加した(12月末日現在3422件、昨年度比111%)。 ②③整容違反者数は昨年度比で増加した(12月末日現在157件、昨年度比262%)。整容違反者に違反チケットを渡し、指導状況を教員間で共有することで組織的な指導が可能となっている。 ②通院を要するような事故は2件あり、怪我に至らない程度の接触等の事故は月に1回程度発生した。 ③学校評価アンケート項目「行事の活発さ」で肯定的評価の増加。(生徒94%(昨年度比2割増)、保護者91%(昨年度比1割増)) ①部会、いじめ防止委員会を定例に加え、必要に応じ適宜開催し、生徒の細かな様子等を共有した。(12月末日時点までの延べ利用者数:SC41名、SSW7名、相談員132名、巡回支援員7名)	B	・「生徒が校則に気をつけて学校生活を送るようになった」という視点であればチケット発行枚数の減少を目指すことには変わらない。ただし、生徒の些細な変化を見逃さないという意味では、チケット発行枚数の増加は、効果的な指導の結果が数字に出ていくと解釈する。今後も引き続き指導を継続していく。 ・遅刻数は前年度比で横ばい傾向である。欠席数は概ね昨年度比111%となる。新型コロナウイルス感染症の第5類への移行もあり増加傾向となった他、入学・新年度当初には前向きに登校できたものの、徐々に諸課題を抱えて欠席が増加した生徒へのアプローチが課題とされる。 ・交通事故の防止については、引き続き自転車マナーアップ指導等の交通安全指導を行うとともに、事故時の対応等の指導も行う必要がある。その際、統合に伴う教職員数の減少も踏まえた指導体制の構築を検討していく。	
3	【現状】 ・体系的な進路指導を計画・実施しているが、生徒の進路希望が多岐にわたり、実態も多様である。就職と進学は概ね半々であるが、進路方針がなかなか定まらない生徒も一定数いる。 ・生徒の多くは進路活動には意欲的であるが、自らの適性に合った進路選択について決められず、スタートが遅れてしまう生徒がいる。 【課題】 ・早い段階から具体的な進路目標を見据えさせるための段階的なキャリア教育の充実が必要であり、特に「職業観」についての理解を深められるような内容をガイダンス等に取り入れていく必要がある。 ・就職希望者において、内定を得る時期が1月以降となる生徒が一定数いる。早期に内定を得られるよう指導していく必要がある。 ・昨年度より紙媒体での求人票を廃止し、web による求人票検索システムを導入した。使用法の指導とともに、進路資料室のweb 環境の整備を進める必要がある。	進路の選択肢の把握と進路意識の醸成 早い段階での希望進路決定者の増加	①「高校生のための学びの基礎診断」の実施と活用 ②進路面談の積極的な実施 ③進路ガイダンスの実施による職業観の育成 ①段階的な進路計画の策定と、各学年での進路行事の実施 ②夏の進路特別指導等における組織的・体系的な指導の実施。 ③資格取得の奨励 ④オンライン上での学校情報収集、求人票検索等に関する指導の充実	①②③授業など学校生活に取り組む姿勢の変化 ②③学校評価アンケート(進路)での満足度 ②③進路希望調査での未定の減少 ①②進路決定結果の内容 ①②卒業時の進路未定者の減少 ③資格試験の受験者数の増加	①基礎診断テストを実施し、各学年で学力の現状を把握するとともに、進路情報企業との情報共有を行い、そこで得た情報を面談に生かすなど、生徒の状況に応じた進路指導に結び付けた。 ②③学校評価アンケートから、保護者・生徒ともに進路指導に対しては、約90%の肯定的な評価を得ることができた。3学年4月当初の進路希望調査では、「未定」者の数は少なかったが、進学から就職へ移る生徒が若干名出た。 ①②現在、3年生の約79.6%の進路が決定している。学校求人を使った就職希望者の割合は昨年度より高まったが、内定率は約77%で、例年よりも上がった。しかし未内定者も一定数出ているため、引き続き1月末時点での未内定者数を減らすことが課題である。 ②夏休みの進路特別指導は出席率も高く、全教員による面接練習や履歴書作成指導など、効果的な運営ができた。今年度は、指定校推薦希望者に対する面接指導も組織的に実施できた。また、web 環境の整備など、進路資料室の機能性が高まり、生徒の進路活動環境を改善できた。 ③資格試験結果(級数等は省略) 漢字検定:受験12名(合格3名)、簿記検定:受験15名(合格6名)、ビジネス文書実務検定:受験97名(合格20名)、実用英語検定:受験7名(合格2名)	A	・生徒本人の希望と保護者の希望が、後になって齟齬をきたす状況を生まないため、進学の費用面等、早期の情報提供をより行っていく必要がある。 ・進学、就職問わず、「職種理解」を深められるような進路ガイダンスを行なっていく必要がある。膨大な情報を比較、検討して自らの進路の可能性を多角的に考えられるような機会を提供していく。 ・統合に係る分掌再編成により、来年度進路指導部の定数は減少する。生徒の進路活動に支障をきたさないよう、進路指導部の職務内容を精査していく必要がある。 ・1月時点での未内定者を減らすためには、9月の就職試験に臨む生徒数を増やす必要がある。そのためには夏休み中に会社見学を終えておく必要があるため、5月には企業の選定を開始させたい。 ・web 求人検索システムは、指導上有効に機能した。今後は、Web 環境の整った進路資料室をさらに有効活用していきたい。	
4	【現状】 ・部活動継続率が低く、活動が停滞気味である。 ・地域との連携は進んでいるが、ボランティア活動等の参加者が一部の生徒にとどまっている。 【課題】 ・部活動と行事の活性化により、生徒自身の総合的な人間力の育成が必要である。 ・地域との連携により、開かれた学校づくりを推進させていく。 ・活動を地域に発信する手法等を工夫していく。	部活動の活性化 学校内外の諸行事の活性化および地域との連携強化	①部活動への参加を奨励し、部活動での活躍・様子の对外発信 ②部活動顧問と担任との情報共有による中途退部の防止 ①生徒会本部や各種委員会が主体となり、地域と連携した魅力ある特別活動の企画運営 ②地域での催し物への積極的参加	①②部活動継続率の上昇 ②部活動顧問会議の活性化 ①行事事後アンケートの満足度の上昇 ②連携・協力した外部機関の数の増加	①②16部活動のうち、12部活動で概ね80%超の高い継続率を保っている。特に、上級生は最後までやりきる傾向にある。 ②部活動の予算編成にかかり、部活動顧問会議を定期的に開催し慎重に予算配分を行うことで部活動の活性化に繋げた。 ①学校評価アンケート項目「行事の活発さ」で肯定的評価の増加。(生徒94%(昨年度比2割増)、保護者91%(昨年度比1割増)) ②全校生徒に募集を呼びかけ、約20名が和光市鍋イベントのボランティア活動に参加した。また、福祉施設への寄付活動を実施した。加えて、1学年の総合的な探究の時間で和光市長と懇談したり、市の卓球イベントに卓球部が参加するなど、地域との交流を活性化できた。	A	・生徒数や教員数の減少に伴い、学校行事や部活動の減少や縮小が予想される。来年度、2・3学年の2学年体制でも、前年度と変わらない充実度を生徒が感じられる工夫を、生徒の意見を交えながら考えていく必要がある。 ・生徒会活動は、会議やアンケート、学校行事などあらゆる場面でiPadを活用し、生徒を中心とした仕組みが完成されている。来年度は全校生徒がiPadを所持しているため、生徒会活動で有効に活用していく。	

学校関係者評価	実施日 令和6年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・少人数学級編制に1・2学年で取り組んでいて非常によい。 ・1つの学習テーマを丁寧に説明している授業が分かりやすい。勉強のやり直しができるのでとてもよい。 ・生徒の授業の様子が年々よくなっていると感じる。 ・次年度全生徒が iPad になることについて、ぜひ活用法を工夫してほしい。 ・情報リテラシー教育についても、より一層取り組んでほしい。
	・基本的な生活習慣の確立に向けた発達支持的な生徒指導の取組は非常によい。 ・整容違反者の増加と校則見直しとの関係について考察すると、今後の取組への参考となるのではないだろう。 ・ヘルメットの着用率はまだ高くないとのことだが、交通事故防止の観点からも啓発するとよい。
	・Web 求人票検索の導入は、求人票がどこでも見られるようになり、家庭で保護者と一緒に見る機会も増えとてもよい取組である。 ・簿記検定やビジネス文書実務検定など学校実施している検定試験があり、生徒が卒業後に向けて学校で資格取得できる機会があるのはよい。
	・鍋イベントのボランティアなどは地域にとってありがたい。総合的な人間性やコミュニケーション能力も身につく機会であり、引き続き地域との結びつきを大切にしてほしい。 ・高校で生徒会に入り見えない努力があることを知った。こうしたことを後輩にも伝え、学校をもっと活性化していきたい。